

東北地区情報

第16号

発行 東北地区退職校長会協議会
代表 太 宰 明

事務局

〒980-0013 仙台市青葉区花京院 1-4-8-205

一般財団法人 宮城教育振興会内 TEL・FAX 022-221-7030



第50回の節目に思う

東北地区退職校長会協議会

会長 太 宰 明

令和6年10月8日第50回東北地区退職校長会協議会福島大会が開催されました。全国連合退職校長会会長田中昭光様、福島県教育委員会教育長大沼博文様、福島市教育委員会教育長佐藤秀美様をはじめ、ご来賓の皆様には公務ご多用の中ご臨席を賜り厚くお礼申し上げます。過去2か年は新型コロナウイルスの影響で1日の日程でしたが、今大会は従前どおりの2日間開催となり、東北6県の同士が一堂に会し、充実した交流ができたことは誠に喜ばしい限りです。

さて、本協議会は昭和47年9月に宮城県松島町（仙松閣）で東北ブロックの組織化が協議され、翌年に第1回東北地区退職校長会協議会宮城大会が開催されました。以来、東北6県の退職校長会が、教育情報を交換し、相互に親睦を図り、全国連合退職校長会と協力して、東北地区における教育の振興に寄与することを目的に活動してきました。この間、コロナ禍で2年間の延期がありましたが、第50回という記念すべき大会を開催することができました。半世紀にわたり先輩諸氏が積み上げてきた歴史を踏まえ、協議会の更なる充実・発展に努めていくという強い思いを6県の退職校長会の皆様と共有したいと思います。

これまでの協議会を振り返りますと、昭和の時代は「青少年の健全育成」、平成に入り「生涯学習の推進と退職校長会の役割」、「組織の拡充、効果的な活動を展開するにはどうすればよいか」というように、それぞれの時代における状況を踏まえた課題をテーマとして情報交換し交流を深めてきました。今大会の協議会である「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」については、退職校長会における「組織の充実・活性化」の根幹をなすテーマであります。その活動の在り方は多

様です。宮城県、福島県、山形県の話題提供では、各県退職校長会が充実・発展する上で新たな視点を示唆していただきました。これまでの実践に敬意を表しますと共に発表までのご尽力に厚くお礼いたします。

全国的な共通課題として、会員の減少が挙げられます。学校数減による退職校長の減少、定年延長に伴う役職定年制導入の影響、更には退職者の価値観の多様化などが要因と考えられます。東北地区においても同様で、今後の組織の維持・強化の面が危惧されています。このような現状と課題に真正面から取り組み対応していくために、東北6県の情報交換による連携が大きな力、そして鍵になると確信しております。第50回を節目として、今後も各県の協力により、本協議会の存在価値が実感でき、「東北はひとつ」絆を深める有意義な大会を追求していきたいと思っています。

結びになりますが、福島県公立学校退職校長会の皆様には、大会の運営、更には「東日本大震災及び原発事故後の復興状況の視察」を特別に企画していただきました。主管県としてのこれまでのご尽力に衷心より感謝申し上げます。



第50回東北地区退職校長会協議会福島大会

協議題「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」

今年度の東北地区退職校長会協議会福島大会は、福島市のホテル福島グリーンパレスを会場に、10月8日（火）に開催された。

理事会

東北地区退職校長会協議会太宰明会長の挨拶に続き、各理事の紹介の後、議長選出を行った。議長には、慣例により福士寛樹副会長（開催県会長）が選出され、協議に入った。

役員人事は、改選の年ではないことから、前年度踏襲が確認された。但し、秋田県会長は、3月に退任なされたことから、伊藤栄二氏が就任したことが報告された。

令和7・8年度の会長職は、会則に則り福島県会長がその任に当たることが確認された。各県からの提案案件について、宮城県から提案がなされた。大会2日目の朝食後解散を原則とすること、また各県の話題提供を3年に一度とし情報交換の場を設けることが承認された。なお、決定事項は次期開催山形県から実施することが確認された。次期開催県の山形県鈴木弘康会長から、令和7年10月9日（木）～10日（金）、山形国際ホテルを会場に開催し、協議題は継続すること、話題提供は秋田県、青森県の2県とし、時間設定等は未定だが情報交換の時間を設けることが提案され承認された。

昼食会

昼食会は、各県の活動状況等のスピーチを聞きながら食事・歓談することで交流を深めることができた。

開会行事

太宰明東北地区退職校長会協議会会長の挨拶後、3名のご来賓からご祝辞をいただいた。

退職校長会には、優れた知見と豊かな経験、総合的な実践力を存分に発揮し、学校支援・ご協力をいただいた

いとお話があった。祝辞の内容は次のとおりである。

〈福島県教育委員会教育長 大沼博文様〉

子供たち一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せである「Well-being」を実現していくためには、社会の課題に主体的に向き合い、多様な他者と協働して解決に向かう力を育んでいくことが不可欠である。福島県第7次総合教育計画に基づき、福島の良い良さを大切にした「福島ならではの」教育を進めるとともに、それを実現するため、一方通行の画一的な授業から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」を推進している。

〈福島市教育委員会教育長 佐藤秀美様〉

全国的に大きな社会問題となっている「教職員の働き方改革」について、福島市は新たに「教職員の働き方改革推進パッケージ」を策定している。教職員の長時間勤務を解消し、子どもと向き合う時間の確保により、授業改善、子供たちの成長等を実感し、教師がやりがいを感じ自信と創意工夫が生み出される。結果、学校に保護者や地域から信頼と応援が寄せられ、ひいては若者たちが教職を志す。このような好循環を生み出していきたい。

〈福島県高等学校校長協会会長 丹野純一様〉

今年度視察した2つの学校の現状について触れる。原発のすぐそばにあった大熊町立熊町小学校の児童は、地震直後から緊急避難を強いられた。熊町小学校児童の受け皿となったのが、私が初代校長を務めた双葉未来学園で、多くの卒業生は役場や復興関連会社に就職するなど地元に戻ってきている。教室の時計は止まったままだが、子供たちの人生の針は確実に進んでいる。昨年開校した大熊町立学び舎ゆめの森は、素晴らしい校舎の中で、4～15歳までが学んでいる。一人一人に応じた自立進度学

習を実現し全国からの入学希望者がいる。光と影が交錯しているのが福島県の現状である。子供たち一人一人が幸せに生き、よりよい社会を創るために、学校だけでなく多様な方々と共に考え、領域や分野を超えて、対話と創造することが欠かせない。

講話

全国連合退職校長会会長の田中昭光氏に、講話題「学校が抱える課題解決」の内容で講話をいただいた。

全退連として、中央教育審議会でも検討している

①更なる学校における働き方改革の在り方 ②教師の処遇改善③学校の指導、運営体制の充実の在り方 について討議し、文部科学大臣に要望書を提出した。

教育は国の礎であり、子供一人一人の学びを保障し、令和の学校教育の充実・振興を図っていくためには、教育現場に行き渡る大胆な財政支援、とりわけ「教員のなり手不足」の解消、優れた教職員の確保が不可欠で、喫緊の課題である。全国の退職校長会の活動を縮小させることなく、充実させながら、子供たち、学校を支援していかなければならないと熱く語られた。

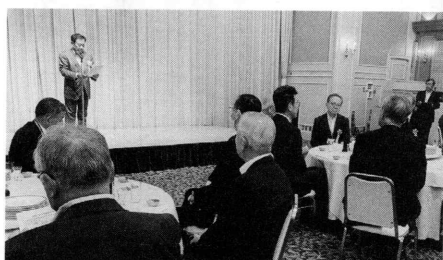
話題提供と協議

「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」を協議題とし、宮城、山形、福島県の3県より実践発表があった。詳細は、各県発表の概要（3～4ページ）を参照願いたい。

理事会報告

開会行事

坂爪事務局長（福島県）より、理事会での話し合いの内容が報告された。開会行事では、太宰明会長が、田中昭光会長の講話、3県の話題提供に対して感謝の思いが伝えられた。次期開催県の鈴木弘康山形県会長からの挨拶、齋藤秀一福島県副会長の閉会のことをもって閉会となった。



福島大会視察研修

福島県公立学校退職校長会

広報部長 二瓶 洋 允

大会二日目の10月9日(水)は、田中昭光全連退会長様をはじめ東北各県代表者34名が参加して、東日本大震災・原発事故後13年半を経過した福島県浜通りの双葉地区にある大熊町立学び舎ゆめの森と東日本大震災・原子力災害伝承館の視察研修を行った。

朝8時、貸し切りバスでホテル福島グリーンパレスを出発し、車中で福士福島県会長からあいさつがあり、福島県小学校長会作成のDVD「復興の歩み」を視聴した。その後、鈴木恵一福島県双葉支部長から「双葉支部の東日本大震災・原発事故当時の状況と現在の状況」について講話をいただいた。当時の避難状況や、旧会津若松市立河東第三小学校での学校再開の苦労や双葉支部の現状など体験を交えて話された。

午前10時頃、大熊町立学び舎ゆめの森に到着し、佐藤由弘大熊町教育長様と南郷市兵学び舎ゆめの森校長・園長様にあいさつをいただいた。学校再開までの経緯や学び舎ゆめの森の教育理念や概要等をうかがい、認定こども園と義務教育学校、預かり保育、学童保育を一体にした先進的な施設を見学した。最後に、岩崎秀一富岡町教育長様より「震災・原発事故後の双葉地区の学校教育とこれから」と題して講話をいただいた。震災・原発事故後の避難所での生活、学校再開・移転の状況、双葉郡教育復興ビジョンなど、当時は振り返りながら話された。

その後、昼食をとり、東日本大震災・原子力災害伝承館に移動した。エピソード(展示の導入となる映像)を視聴後、地震・津波・原発事故の被害の様子、過酷な避難を伝える展示など自由に見学して、帰路についた。参加者からは、福島県の現状を改めて知ることができ、すばらしい研修になったという感想が多く寄せられた。東北各県のご理解とご協力に心より感謝したい。



各県発表の概要

時代の変化に応じた組織の在り方を探る
新規事業「セカンドライフ」へ向けた交流会
を通して宮城県退職校長会仙台市支部
仙台市退職校長会

会長 日塔 光博氏

一 新規事業「セカンドライフ」に向けた交流会について

〔背景〕

- ・校長を定年退職した後の社会環境の大きな変化(年金支給開始時期の引き上げ、65歳までは働き続けなければ「退職」の気分ではない!)
- ・退職校長の入会が思わしくない等

〔創設・改称・現状〕

- ・令和2年「退職を控えた校長との交流会」を創設
- ・入会時期は、役職定年時(校長職を退く60歳)
- ・「セカンドライフ」に向けた交流会」と改称
- ・これまで5回の開催・仙台市内の学校を退職した校長の新規入会率は9割を超える

〔セカンドライフに向けた交流会〕の内容〕

(1) 話題提供Ⅰ

- ・会員へのアンケート結果の配布・説明(不安だったこと、就職先を選ぶ時に考えたこと、新しい職場で意識していること等)

(2) 話題提供Ⅱ(再就職先での実際面)

- ・4人の会員による講話「再就職、私の場合は」(代表的な4つの職種①市教委②市民センター・児童館③私立幼・小・中・高校・大学④民間企業等)

(3) 話題提供Ⅲ(退職後のお金の話)

- ・退職金の管理・健康保険・年金の手続き
- ・年金額・ライフプランを作る等

- (4) 質問タイム(全体で、各話題提供者を囲んで)
- ・参加者が希望する職種によるグループ分け

- ・役員が進行、助言者で入る
- 二 今後に向けて

〔成果・参加校長からの感想〕

- ・後輩校長のためにこの会を継続していただきたい。
- ・現職者と退職者がつながった取組に感謝。

〔課題〕

- ・途中退会者も依然として少なからずある。会に所属していることの意義を実感することが必要。

「学校の応援団としての役割をとおして」
米沢市歴代校長教育懇話会の持ち方の変遷から

山形県退職校長会

米沢支部長 山田 善一氏

一 はじめに

- ・米沢市歴代校長教育懇話会は、退職校長会と市内の小、中、高、特支の現職校長会で、年1回開催。
- ・平成30年度までは、小、中、高、特支、退職校長会代表が教育の成果や課題等を発表し、質疑応答の時間を設定する形式で実施した。

- ・令和元年度は、形式を見直し、小グループによる座談会に。退職、現職の意思疎通が図られた。

- ・令和2、3年度は、コロナ禍のため中止。再開にあたって、現職校長の希望も十分考慮する内容に。

二 米沢市歴代校長教育懇話会について

(1) 令和4年度

- ・学校安全の確保や学校事故の防止について研修したいとの要望(現職校長)

○演題「今、求められている校長の危機管理」

○講師・戸田 芳雄氏

(日本安全教育学会理事・明海大学客員教授)

○元山形県教育庁指導主事

○内容

- ・管理職としての校長の役割を認識し実行
- ・人命最優先、事故発生以前の備えの重要性
- ・想定外の事故発生に対するリスクの研修等

(2)令和5年度

・学校現場の課題、ジェンダーフリーを取り上げ、現代の社会情勢の理解と対応、その指導の在り方などについて研修した。

○演題：「LGBTQと基本的人権」

より良い学校教育のために、

○講師：池田 弘乃 氏

(山形大学人文社会科学部教授)

○内容：

・「LGBT理解推進法」の制定

・生徒指導提要に「LGBT」の課題と対応が明文化

・学校現場での性自認の多様性の理解等

(3)令和6年度

・「学校の先生っていい仕事なんだ」をどう伝えていくか(山形県退校会活動テーマ)を大前提に、学校が抱える課題について研修を進める。

○演題：「発達障害のある子どもの理解と支援」

校内支援体制づくりを含めて、

○講師：梅田 真理 氏

(宮城学院女子大学教育学部教授)

三 終わりに

・退職校長会が、今の学校に応援団として何ができるか遠大な課題である。

福島県公立学校退職校長会各支部における社会貢献活動及びクラブ(同好会)活動の現状と課題

福島県公立学校退職校長会

総務部 内藤 良行 氏

一 はじめに(本会概要)

・令和6年 創立60年目 ・県内16支部

・会員数 2272名(正会員)

二 各支部における社会貢献活動について

「学校教育への貢献」活動9支部 活動無し7支部

○活動の具体事例

・市教委「スクールアシスタント事業」校内研修、授業支援

・合唱、書道、絵画、運動等、部活指導への協力

・絵本の読み聞かせ ・放課後の学習支援

・「子育て講座」の講師 ・土曜学習の指導支援

・登下校指導等の安全指導

○活動後の学校側の反応・会員からの声

・研修や教育活動が充実 ・子供の学習意欲が向上

・教師のゆとりが生まれた ・保護者から感謝の声

・子供たちから元気をもらって感謝(会員)

・自分の趣味が子供の成長の一助になる喜び(会員)

・作文の言語活動が充実との知らせがうれしい(会員)

「地域社会への貢献」活動8支部 活動無し8支部

○活動の具体事例

・面接の指導 ・作文等作品審査

・養護施設等の花壇整備・除草等

・こども園での講演、自然散策補助、科学遊び指導

・保護司として活動 ・夏休みの宿題支援等

○活動後の地域の反応・会員からの声

三 各支部におけるクラブ(同好会)の設置状況について

「設置状況」設置あり14支部 設置無し2支部

○設置の具体例：()内は支部数

運動系 ・ゴルフ(9)・登山、ウォーキング(3)等

文化系 ・囲碁(8)・園芸(5)・写真(3)

・文芸(2)・郷土史、文化財(2)・麻雀(2)

○活動の状況

・各支部では、実情に合わせて会員相互の交流と親睦、研修に取り組んでいる。

「設置無し支部の状況」

・総会後の懇親会・現職校長との交流を兼ねた懇親会

・地域の各種サークルや団体に所属して活動

・高齢化が進み、サークルの運営、維持が困難

・再任用等により入会する状況に無い。

四 今後の課題(各支部活動の活性化に向けて)

・成果発表の機会を設け、活動の機会を広げると共に新たな会員勧誘の場とする。

・近隣支部間の情報交換、連携を一層推し進める。

各県の紹介

福島大会に学ぶ大切なこと



山形県退職校長会
会長 鈴木 弘康

《被災地に向かうバスの中》澄み切った子どもたちの歌声が聞こえてきた。映像にあの日がフラッシュバックする。体験した者だけが表現しうる言葉に、あの時と同じ悲しみが押し寄せてきた。

学校は積み上げていくことが苦手である。だから、同じ課題に一から取り組むことになり、解決が遅れてしまうことが多い。このVTRは、惨禍から数年後に、福島県小学校長会が作成している。その偉業に、改めて記録の大切さを学ばせていただいた。

まもなく、どの県も結成60周年を迎える。先輩たちの足跡を心に刻み、確かな未来を語りかけたいものである。

《視察先の教育長さん、校長先生》が私たちを温かく迎えてくれた。16支部の支部長さん方の人柄にも触れることができた。日頃からの支部との親密な関係を大切にする事務局の皆様さんの姿勢が見えた気がした。

退職校長会と学校現場とが交わる接点は、やはり支部に在る。大まかには萎縮ぎみの教育界ではあるが、「学び舎ゆめの森」に見る教育は誇りと自信に満ちていた。私たちは、こうした教育の喜びと幸せを社会に伝え、若者に魅力を感じてもらいたい。

《一度いただいた弁当》は美味しいものだった。表面的には量的配慮しか見えない弁当、私はそれを深読みしたくなった。組織の危機が報じられるこの頃、「自制」が求められていることを感じている。前例踏襲は言うまでもなく、ガバナンスに疑いが生じれば、下部組織の脱退が始まる。社会は登うつと「下山」が続いている。そこには、必死さばかりの登山では見えなかった景色が広がっている。目を凝らして、身の程の幸せを見つけていきたい。私たちに提供された弁当は、実に自製の効いたものではなかったか。緻密に配慮された思いやりで学校を応援していきたい。

《2日目の日程を持たない原則》はあるが、福士会長さんはじめ、福島県さんの強い思いから実施された研修だった。熱意に満ちた企画に、「東北は一つ」の思いを共有することができた。

この度の研修で、また一つ本会の存在意義が見えた気がする。



原点を「綱領」に見て

秋田県退職校長会

会長 伊藤 栄 二

本県では、秋田県退職校長会という組織は、県内各都市の連合機関として成立しており、主体はあくまでも各都市それぞれの会というになります。その上で、県退職校長会としての崇高な共通理念が、令和元年制定の綱領に五項目掲げられております。そして、会長をはじめとする県役員は、そこにある理念の具現化に向けた調整役であると理解しております。

理念は、どれも重要なものばかりですが、現在特に力点を置いていることは、三番目にある親睦や交流を深めることとともに役職定年者の入会率を高めることにあります。

退職校長会への入会の勧誘の際によく聞かれるのは、退職校長会の意義についてですが、最近になって、次のことを丁寧に伝えることが重要ではないかと思っております。それは、私たちは、互いに学校経営の最終責任者として携わったことをもとに、「あうんの呼吸」の中で自らの生きがいや教育振興について、気軽に語り合い、交流を深めることができる仲間だということであります。

私たちが退職校長会は、長年に渡って教育指導・学校経営の核心を脈々と引き継いできたという大きな誇りをもって、今後も退職校長会の充実・発展に力を注ぎたいものだと思いを新たにしているところですよ。

秋田県退職校長会 綱領

われわれは、秋田県退職校長会結成以来の歴史や活動を継承し、本県の教育の将来を見定め、会員としての自覚と誇りをもって、ここに綱領を制定する。

一 教育尊重の気運を上げ、秋田教育の振興に寄与する

一 生きがいをもって生涯学び続け、充実した生き方を実現する

一 会員の親睦を図り、福祉の増進に努める

一 地域の教育・文化の向上や、良好な環境の形成に尽力する

一 関係機関、団体と連携・協力して、活動の発展を図る

令和元年十月十二日（結成五十周年）制定



退職校長会の新たな姿の模索

青森県退職校長会

事務局長 鳴海 強

青森県退職校長会では、昨年度本会創立50周年記念事業として、参加人数を限定した記念式典の開催、創立50周年記念誌「50年の歩み」の発行をすることができました。感染症予防のため飲食の場を設定しませんでした。

本年は、青森県退職校長会の支援の元、第18回「あおり教育の日」推進大会を、4年の延期を経て、11月2日五所川原市で開催しました。初めての参加となった知事には、児童生徒によるパネルディスカッション終了後、講評を述べるまで在席をいただきました。本県の「あおり教育の日」推進事業は、民間諸団体による運営であり、さらに中心となっているのは、退職校長会の県内6支部です。行政が中心となった事業へ移行できることを期待しています。

しかし、青森県退職校長会の最大の課題は、会員数の大幅な減少で、歯止めがかかっていない状況です。コロナ禍の4年間で15%減、会費納入者に至っては21%減です。自然減、60歳代の退会、入会率の低迷が続きます。

本年の総会で「令和6年度以降の運営」について逼迫した実情の理解を深めました。財政の逼迫と運営スタッフ継承者不在の見通しです。そこで、支部の活動を残しつつ、県本部維持について検討しました。令和7年度初めには、事務局からの提案で今後の運営についての結論を得る予定です。各県の状況は、様々でしょうが、本県の実情について、ご理解をいただけるよう努めて参りたいと思います。

福島大会は、コロナ禍前に戻ったような大会でした。諸物価値上がりの中、福島県の会長様はじめ事務局の皆様のご努力には本当に頭の下がる思いでした。本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。



第50回東北地区退職校長会協議会福島大会に参加して

岩手県公立学校退職校長会

会長 吉川 健 次

福島県の福士会長始め、実行委員の方々に感謝を申し上げたい。

話題提供では、宮城からは「セカンドライフへ向けた交流会を通して」。山形からは「学校の応援団の役割として」。福島からは「社会貢献活動及びクラブ活動の現状と課題」。貴重な発表であり、大変参考になった。次年度から2県が話題提供することに決定。

昼食時の情報交換では、岩手県の菅原副会長が「大谷選手50本塁打＆50盗塁などの大活躍」について発表しました。大谷選手が生まれ育った奥州市では、大谷選手を「田んぼアート」に表現して栄誉を讃えている。その場所は、789年の「すべせ果伏の戦い」で地元の族長アテルイ率いるエミシ軍が朝廷軍に驚異的な惨敗を与えた所である。

2日目は、大熊町視察。貸切バスでの行き帰りでは、震災当時の避難の状況が地元の教育長から語られた。「その日の夜に西の方に避難せよ。それから13年、今だに戻れないでいる。」

東日本大震災・原子力災害伝承館では、津波襲来時の高さ4mの所に印があった。とても高い高さである。防波堤から伝承館まで1kmはあるが津波により建物は一切無い。

「まなび舎ゆめの森」は、震災から10年目に開校した幼稚園児・小学生・中学生の一貫校である。図書館を中心に放射状に教室が配置され、カリキュラムは児童生徒が自ら組み立て、1/2単位のレベルアップタイムを設定するなど、新しい取り組みがなされており、非常に参考になった。

今後、このような2日目の視察研修を組み込む企画があっても良いと思つた。



確実に進む

宮城県退職校長会
副会長 荘司 貴喜

記念すべき第50回東北地区退職校長会協議会福島大会が福島県のスタッフの皆様のお陰で大変有意義な大会となりました。今年は5年ぶりに1泊2日のスケジュールに戻り、懇親会でも各県の皆様と情報交換できたことはうれしいことでもありました。

各県の状況は各県様々であり、「東北」と言っても各県それぞれの特色があるものです。しかし、その中でも新入会員の減少による運営の見直しは、共通の問題です。本県でも、各支部の活動の充実が何より会員の確保につながるものと考えており、各支部の特色を生かした活動を後押ししたいと考えております。

この福島大会の話題提供もこれまでの活動を掘りさげたり、さらに一歩進める取組の発表でした。山形県米沢支部の「学校の応援団としての役割をとおして」、福島県の「社会貢献活動及びクラブ活動の現状と課題」、そして、宮城県仙台市支部の「セカンドライフに向けた交流会」のどの発表においても、大いに参考になりました。こうした取組を情報交換し合い、参考にしながら各県での活動をさらに進めることができれば、この協議会の意味もさらに大きなものになるものと確信しております。各県各支部の一つ一つの活動は、現役の先生方や子どもたちの成長を見守り支援していくという熱意と信念の表れであります。その根幹はどの県、どの支部の会員もが共通にもっている熱い思いです。我々が時に口にする「東北はひとつ」という言葉も、活動を支え進める心や熱意であろうと改めて感じた大会でもありました。

来年もまた皆様方とお目にかかり、充実した情報交換ができるよう、宮城県としてもさらに各支部と力を合わせて確実に進んでいきたいと思えます。



第50回東北地区退職校長会協議会福島大会を開催して

福島県公立学校退職校長会
会長 福士 寛樹

第50回東北地区退職校長会協議会福島大会が多くのご来賓と東北各県の皆様をお迎えし、福島市において盛大に開催できたことを大変嬉しく思います。

1日目の理事会、協議会、懇親会に続き、2日目には、朝食後、革張りのリムジンに乗り、東日本大震災被災・原発立地地区へご案内しました。震災直後DVD視聴後、双葉支部長の講話、「大熊町立学び舎ゆめの森」見学、大熊町教育長挨拶、富岡町教育長講話、東日本大震災・原子力災害伝承館を見学しました。

東日本大震災から約14年になります。未曾有の地震災害と原子力災害の爪痕は非常に深く、車窓から荒れ果てた田畑や民家、立ち入り禁止のバリケード、汚染土壌等を包む黒い袋などを多く目にされたかと思えます。ぜひ、これらの様子を各県会員の皆様やご家族等にお伝えいただくとともに本県被災地区に対するご理解・ご支援を引き続きいただきたくお願いいたします。

東北各県では、組織の維持拡大、会員減による会費減少や物価高への対応、活動の充実など多くの課題を抱えながら難しく厳しい運営をされていることと思えます。全連退会長 田中昭光様の講話、宮城、山形、福島3県の発表は各県の諸課題解決や改善へのヒントとなったと思います。田中会長様、発表された皆様に衷心より感謝申し上げます。

懇親会では、福島県内16の支部長さんから地元銘酒を、奥の松酒造の遊佐社長さんからたくさん純米大吟醸酒をいただきました。4年ぶりに東北各県の皆様が一堂に会し、酒を酌み交わし交流を深めることができました。「東北はひとつ」を実感する一助になったのではないかと思います。参加されました皆様に心より御礼申し上げます。来年、山形で皆様と再会できますことを楽しみにしております。



【飛翔の季…七ツ森を背にして(宮城県)】

編集後記

(宮城県退職校長会 広報部 佐藤 崇)

記念すべき第50回東北地区退職校長会協議会福島大会が開催されて早いもので3か月が過ぎました。私も2日間、参加させていただきまし。福島県公立学校退職校長会の皆様のご尽力で、大変有意義な大会だったと実感しております。ありがとうございました。

2日目にご案内いただいた原子力災害伝承館に展示されていた鍵盤ハーモニカを忘れることができません。この持ち主は今どうしているのだろう。

東北地区情報15、16号を宮城が担当させていただきました。次号からは、福島に引き継ぎます。

最後に、玉稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。



【各県の窓口 (事務局長と連絡先)】

福島県	(坂爪 靖夫)
山形県	(村山 良光)
秋田県	(石郷岡仁司)
青森県	(鳴海 強)
岩手県	(舘澤 卓宏)
宮城県	(桂島 晃)